

二條陣屋

二条城下に門を構える二條陣屋は、京都に屋敷を持たない大名が、上洛時に宿泊所として用いていた屋敷です。江戸時代より代々、京商人であった小川家の住宅であり、現在も小川さん一家が生活されています。重要文化財に指定された屋敷内には、大名を守るための仕掛けや、趣向を凝らした細工が随所に見られ、訪

れる人の好奇心を満たしてくれます。先人の知恵を余すことなく生かした二條陣屋。ここでは、その見所をいくつか紹介します。

武者隠し

大広間の天井裏に隠された見張り部屋。警護の侍は24時間体制で武者隠しに潜み、大名の護衛をすることができます。

お能の間

普段敷かれている畳を上げると能舞台になる部屋。能の質を高めるため、音響的な造りは本格的なものとなっています。

吊り階段

普段は吊り上げているため、柵のように見える階段です。

▶ 二條陣屋の外観。



苦船(とまふね)の間

天井が屋形船の形をしており、床が少し傾いた造りになっている茶室。船上にいる不安定な感覚を楽しむために造られたそうです。

▶ 見学者から最も人気のある吊り階段。緊急時に、大名が避難用通路として用いています。



落とし階段

階段に取り付けられた引き戸を開けることで、追ってきた敵を踏み外させることができます。

12代目当主小川平太郎さんにお話を伺いました

—二條陣屋の維持にあたり苦労されている点は？
毎年修理をしなければいけない点です。突然雨漏りすることもあります。修理には年間約200万円かかりますが、補助金も十分ではないので大変ですね。

—御当主の考える二條陣屋の見所は？
武者隠しです。民家では普通このようなものは造れません。外から見てわからないのが面白いですね。それと、この屋敷の所々に使われている銘木も見所ですね。



◀ 御当主お気に入りの武者隠しからの降り口は、来訪者からは見えなように造られています。

—二條陣屋に対する思い入れを聞かせてください。

私が子供のころは、まだ重要文化財の指定を受けていなかったもので、かくれんぼをしたり、木登りをして遊ぶことができました。だから、この家には思い出がたくさん詰まっていますし、愛着もあります。ご先祖がこのような貴重な文化遺産を残してくれたので、この家を守っていくことについては、苦労もありますが、誇りもありますね。

—ありがとうございました。

アクセス：

地下鉄二条城前駅から徒歩5分

見学方法：

電話又は往復はがきで申し込み
(希望日、代表者氏名、電話番号要記載)

見学料：1,000円

見学時間：10時～15時

TEL：075-841-0972

住所：〒604-8316

京都市中京区大宮通御池下ル137

休館日：水曜日

